

株主・投資家のみなさまへ

第118期 第2四半期ビジネスレポート

2019年4月1日～2019年9月30日

証券コード: 6516

<https://www.sanyodenki.co.jp>

SANYO DENKI

118th

ひと目でわかる決算ハイライト

売上収益
34,338 百万円
前年同期は 44,433 百万円

営業利益
△ **139** 百万円
前年同期は 4,706 百万円

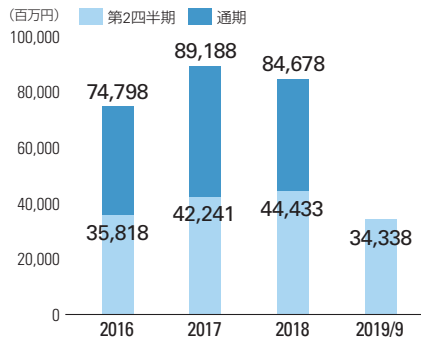
税引前四半期利益
△ **247** 百万円
前年同期は 5,126 百万円

親会社の所有者に帰属する四半期利益
△ **491** 百万円
前年同期は 3,792 百万円

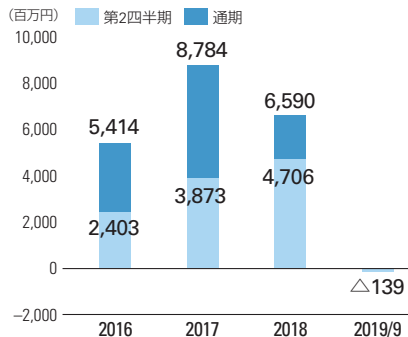
受注高
34,083 百万円
前年同期は 41,776 百万円

受注残高
15,347 百万円
前年同期は 19,886 百万円

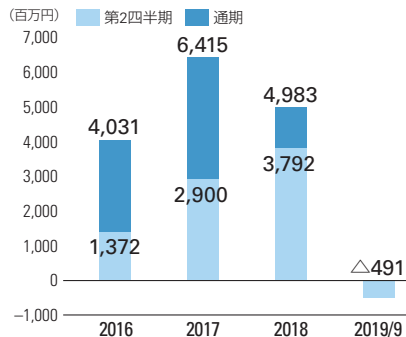
● 売上収益



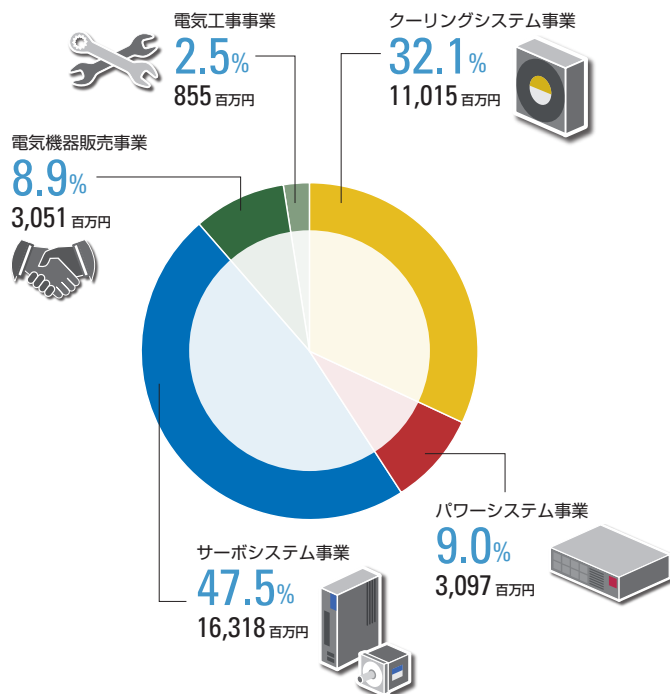
● 営業利益



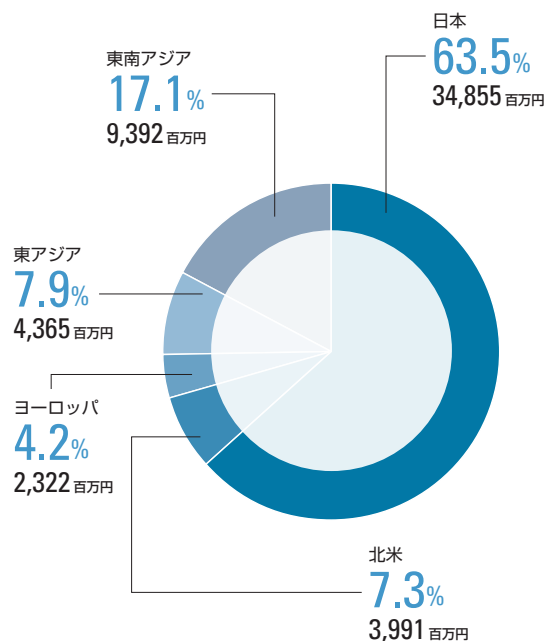
● 親会社の所有者に帰属する当期利益



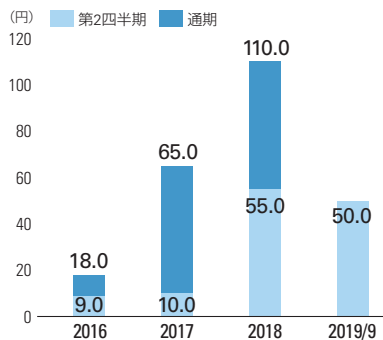
●事業別連結売上収益構成比



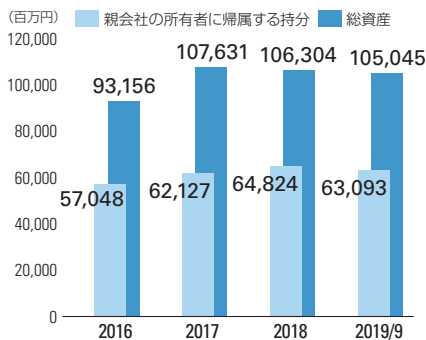
●セグメント別連結売上収益構成比



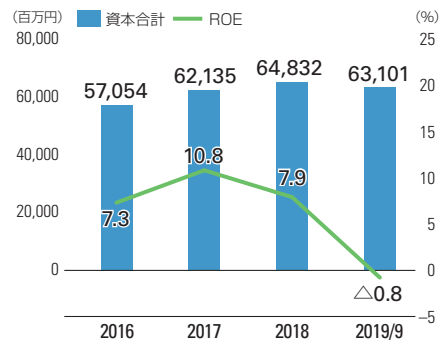
●1株当たり配当金



●親会社の所有者に帰属する持分／総資産



●資本合計／ROE (親会社所有者帰属持分当期利益率)



株主のみなさまへ

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととおよろこび申しあげます。

第118期の第2四半期のビジネスレポートのお届けにあたりまして、ひとことごあいさつを申し上げます。

当社グループでは、2016年4月から5年間の中期経営計画に取り組んでおります。

今年で4年目となるこの計画では、

- 1 品質・性能・信頼性において、「世界一の製品」を絶え間なく開発し続けること。
- 2 世界中のお客さまに、均一で高品質な製品やサービスを提供するために、すべてのグループ会社とその経営方針を同一にして「ボーダーレス」の営業体制にすること。
- 3 すべての情報の流れを「リアルタイム」にし、世界中どこからでも、企業活動に関わる現在のあらゆる状況を把握できるようにすること。
- 4 生産効率を高め、品質を向上させ、あわせて在庫の削減や生産管理に役立つ「工場の自動化」を構築すること。

を目指しており、それぞれ具体的な成果が出てまいりました。

長野県上田市の工場では、サーボモータとサーボアンプの自動化生産ラインが完成間近です。また、クーリン

グファンの組立工程ラインも刷新し、製品品質と生産効率が格段に向上いたしました。

また、フィリピン工場では、今年の3月に開設したテクノロジーセンターが本格稼働し、フィリピンでの新製品開発と生産技術の向上に大きく貢献しています。

さらに、今年の4月には、中国天津のグループ会社、山洋電気(天津)貿易有限公司が開業いたしました。同社の北京支店とともに、中国華北・東北地方のお客さまに向けた販売、サービスを拡大します。

しかしながら、当第2四半期の事業の結果は、米中貿易摩擦の長期化に伴うファクトリーオートメーション業界の需要の落ち込みの影響から、後述のとおり不本意な結果となりました。当第2四半期末の配当金につきましては、1株あたり50円といたしました。

2020年は市場の回復とともに、中期経営計画の施策の成果が期待できます。

株主のみなさまには、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2019年12月

代表取締役兼社長 山本茂生

当期のハイライト

4月

第8次中期経営計画4年目がスタート

5月

新製品

DCサーボモータ
SANMOTION Kを発表



6月

新製品

常時インバータ給電方式UPS
SANUPS A11M(AC100Vタイプ)を発表



2019

4月

フィリピン
テクノロジーセンター
が本格稼働



4月

中国・天津にグループ会社
を開業



5月

新製品

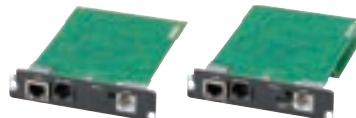
防油ファン4機種を発表



8月

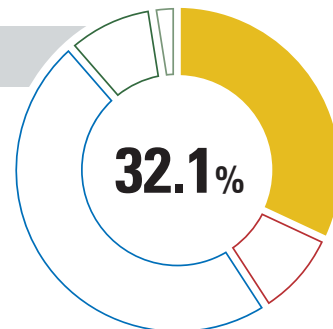
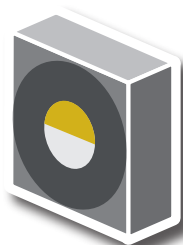
新製品

Modbus仕様
LANインタフェースカードを発表



クーリングシステム事業

San Ace（サンエース）は、冷却ファン、ファンユニットなど、山洋電気のクーリングシステム製品を総称するブランドです。



San Ace

制御機器や医療機器、電源装置向けの需要が堅調でした。一方、データセンター向けや、中国景気減速にともなうファクトリーオートメーション向けの需要は減少しました。

その結果、売上収益は11,015百万円(前年同期比8.4%減)、受注高10,787百万円(前年同期比9.9%減)、受注残高3,858百万円(前年同期比3.0%減)となりました。

主要製品

- DCファン
- ファンユニット
- 耐久ファン
- エアフローテスター
- ACファン
- PWMコントローラ

売上収益

11,015 百万円

受注高

10,787 百万円

受注残高

3,858 百万円

新製品

業界トップの高風量，高静圧を実現
防油ファン 4機種を発売

防油ファン San Ace 9WFAタイプ

業界トップ^{※1}の高風量，高静圧を実現した防油ファンです。

耐油性に優れた材料で巻線・電子部品を保護する構造のため，オイルミストが飛散する
厳しい環境でも安定した動作を保ちます。

※1 2019年12月現在。同サイズの産業用ファンと比較した場合。当社調べ。



40mm角×20mm厚

60mm角×20mm厚

80mm角×20mm厚

92mm角×32mm厚

主な用途

工作機械，制御盤，インバータ，各種産業機器など

新製品

業界初 $\phi 70 \times 20$ mm厚の小型・薄型 遠心ファンを発売

遠心ファン San Ace 9TDタイプ

業界トップ^{※1}の高風量・高静圧を実現した遠心ファンです。

外径 $\phi 70$ mm，厚さ20 mmの遠心ファンは業界初^{※2}です。

小型・薄型の機器への搭載や基板モジュールへの組み付けに適しています。

※1 2019年12月現在。同サイズの産業用ファンと比較した場合。当社調べ。

※2 2019年12月現在。当社調べ。

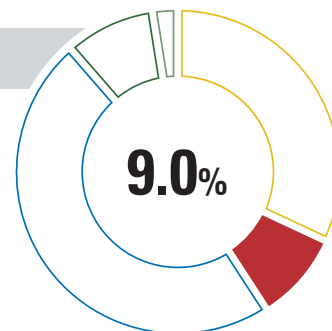
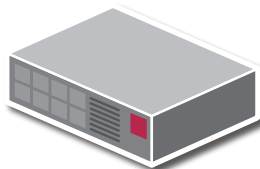


主な用途

グラフィックカード，デジタルサイネージ，プロジェクタ，
プリンタ，換気システム，空気清浄機など

パワーシステム事業

SANUPS（サナップス）は、
無停電電源装置（UPS）、インバータ、
太陽光発電システム用パワーコンディショナ
など、山洋電気のパワーシステム製品を
総称するブランドです。



SANUPS

通信機向けや太陽光発電向けの需要が低迷しました。また工場設備向けの需要も設備投資の先送りの影響を受け停滞しました。一方、公共設備向けの防災・停電対策による需要は増加しました。また病院設備向けの需要も堅調に推移しました。

その結果、売上収益は3,097百万円(前年同期比6.9%減)、受注高4,163百万円(前年同期比13.8%増)、受注残高2,897百万円(前年同期比34.9%増)となりました。

- 主要製品**
- UPS（無停電電源装置）
 - インバータ
 - パワーコンディショナ
 - 無瞬断切換装置
 - グリッド管理装置
 - 防災用ディーゼル発電装置
 - 瞬時電圧低下補償装置

売上収益

3,097 百万円

受注高

4,163 百万円

受注残高

2,897 百万円

新製品

国土交通省の「国土強靱化基本計画」案件に使用できる
屋外用の無停電電源装置「SANUPS N11B-Li」を発売

常時商用給電方式UPS **SANUPS N11B-Li**

国土交通省の国土強靱化基本計画の案件^{※1}に使用できる屋外用の無停電電源装置（常時商用給電方式）です。
使用温度範囲が-20～+50℃と広く、温度環境の厳しい地域でも安心して使用できます。リチウムイオン電池搭載のため、10年間^{※2}、バッテリー交換が不要です。

※1 国土交通省が作成した「屋外用無停電電源装置 機器仕様書（案）」に基づく。

※2 周囲温度25℃の場合。

主な用途 道路・河川・港湾・上下水道などのインフラを維持するための監視カメラ、情報表示器など



新製品

グローバルに使える高信頼の並列冗長構成UPS
「SANUPS A11M」 AC100Vタイプを発売

常時インバータ給電方式UPS **SANUPS A11M**

並列冗長構成の常時インバータ給電方式UPS「SANUPS A11M」に、入出力単相2線のAC100Vタイプをラインアップしました。1kVAのUPSユニットを組み合わせることで、出力容量を最大8kVAまで拡張できます。幅広い入力電源範囲と使用温度範囲により、世界中で安心して使用できます。

主な用途 公共機関、交通機関（道路・鉄道・空港など）、病院、銀行、データセンタなど



新製品

生産設備の安定稼働に貢献する
Modbus仕様「LANインタフェースカード」を発売

LANインタフェースカード

無停電電源装置（UPS）のオプション「LANインタフェースカード」に、業界標準の通信規定Modbus^{※1}を追加しました。システム全体の電源状況が一元管理できるため、生産設備の安定稼働に貢献します。

※1 Modbus：産業機器間でデータをやり取りするために、標準的に利用されている通信規定。



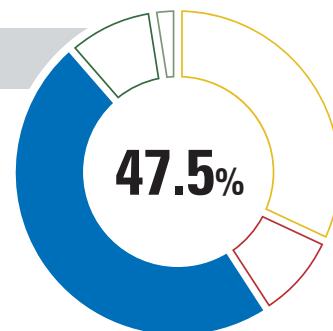
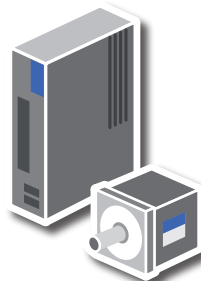
Modbus
TCP通信機能
搭載モデル



Modbus
TCP/RTU通信機能
搭載モデル

サーボシステム事業

SANMOTION（サンモーション）は、サーボモータ・アンプ、ステッピングモータ・ドライバ、コントローラ、エンコーダなど、山洋電気のサーボシステム製品を総称するブランドです。



SANMOTION

米中貿易摩擦による中国経済の減速、中国のスマートフォン向け設備需要の低迷、メモリ市場の減速による設備投資の先送りなどにより、工作機械・ロボット・半導体の各業界共に受注が大きく減少しました。

その結果、売上収益は16,318百万円(前年同期比37.5%減)、受注高15,073百万円(前年同期比34.7%減)、受注残高6,791百万円(前年同期比44.2%減)となりました。

- 主要製品**
- ACサーボシステム
 - ステッピングシステム
 - DCサーボシステム
 - モーションコントローラ
 - リニアサーボシステム

売上収益

16,318 百万円

受注高

15,073 百万円

受注残高

6,791 百万円

新製品

速度変動の低減と省エネルギーを実現
DCサーボモータ「SANMOTION K」を発売

DCサーボモータ **SANMOTION K**

速度変動の低減と省エネルギーを実現したDCサーボモータです。
低速回転時でも滑らかに動き、装置の動作精度を向上できます。
低電圧仕様(DC24V)もラインアップし、医療用機器など、人の近くで動く機械でも安全に使用できます。

主な用途 精密測定機、医療用機器など

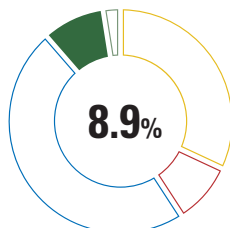


54mm角



76mm角

電気機器販売事業



電気機器販売事業は、産業用電気機器、制御機器、電機材料などの販売をおこなう事業です。

産業用電気機器、制御機器および電気材料の販売は、医療関連向けの需要が堅調に推移し、防災用無停電電源装置や太陽光発電事業関連も需要が増加しました。一方、半導体関連の需要は依然として低調でした。

鉄鋼関連事業の需要は、発注遅延により減少しましたが、構内設備および補修工事の需要は堅調に推移しました。

その結果、売上収益は3,051百万円(前年同期比41.8%増)、受注高3,235百万円(前年同期比41.3%増)、受注残高1,056百万円(前年同期比27.4%増)となりました。

売上収益

3,051 百万円

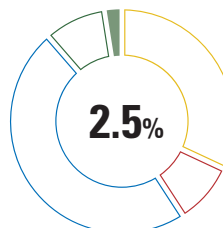
受注高

3,235 百万円

受注残高

1,056 百万円

電気工事業



電気工事業は、産業用コントロールシステムの設計、開発、施行、保全工事を提供する事業です。

製鉄所構内の電気工事は、老朽化した電気設備の更新および補修工事の需要が堅調に推移しました。一方、構外案件およびシステム案件の需要は、発注遅延のため低迷しました。

その結果、売上収益は855百万円(前年同期比4.1%増)、受注高822百万円(前年同期比4.5%増)、受注残高743百万円(前年同期比3.1%減)となりました。

売上収益

855 百万円

受注高

822 百万円

受注残高

743 百万円

Case 1

中国・天津にグループ会社 を開業



2019年4月、中国天津にグループ会社「山洋電気（天津）貿易有限公司」と同社の北京支店を開業いたしました。

この山洋電気天津では、中国華北・東北地方を中心に、当社製品の販売、現地代理店の支援をおこなっていきます。また、併設するテクニカルセンターでは、地域に合わせた独自の製品開発やカスタマイズ、お客さまへの技術支援をおこない、現地でのビフォーアフターサービスを充実させていきます。



オフィス外観



テクニカルセンター

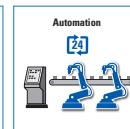
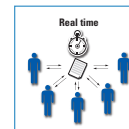
第8次中期経営計画の取り組み



2016年4月にスタートした第8次中期経営計画は今年で4年目となり、いよいよ集大成の時を迎えます。この中期経営計画では、「世界一の製品開発」「ボーダーレス」「リアルタイム」「工場の自動化」の4つを取り組みのテーマに掲げ、目標の達成を目指しています。

Case 2

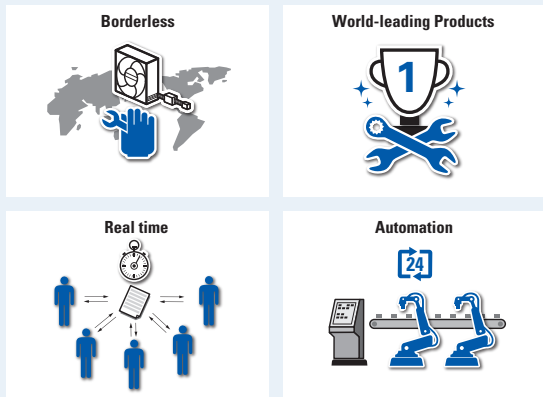
「生産革新ライン」 の構築



当社グループでは、山洋電気ブランドの製品を組み込んだ独自の自動化生産ライン「生産革新ライン」を構築しています。

富士山工場では、新たに、ファンモータとサーボアンプの組立工程を自動化し、生産効率が一段と向上しました。

また、サーボアンプの制御基板組立では、はんだ付け作業のできればをリアルタイムに検知する、AI（人工知能）機能を搭載した工程を導入し、より精度の高いものづくりを実現しました。



ファンモーターの組立工程



サーボアンプの組立工程

Case 3

フィリピンのテクノロジーセンターが本格稼働



フィリピン工場に今年3月、テクノロジーセンターを新設しました。

このテクノロジーセンターは、国内で稼働中のテクノロジーセンター（長野県上田市）に続く2ヶ所目の設計・開発拠点です。フィリピン工場で生産されるクーリングシステム、パワーシステム、サーボシステム製品の設計・開発をおこないます。

また、このテクノロジーセンターは、山洋電気フィリピンの工場と隣接しており、製品開発と生産ラインの構築を効率的に進めることのできる環境が整っています。グループ内のノウハウを集約した設計・開発拠点として、今後も新たな製品と生産設備を生み出すとともに、世界中に高品質な製品を提供していきます。



連結財務諸表

連結 財政状態計算書（要旨）

（単位：百万円）

	当第2四半期末 2019年 9月30日現在	前年度末 2019年 3月31日現在	増減額
資産			
流動資産	59,964	63,595	△ 3,631
非流動資産	45,081	42,708	2,373
有形固定資産	26,019	26,084	△ 65
無形資産	4,952	4,624	328
その他	14,109	11,998	2,110
資産合計	105,045	106,304	△ 1,258

負債

	当第2四半期末 2019年 9月30日現在	前年度末 2019年 3月31日現在	増減額
流動負債	25,901	27,991	△ 2,089
非流動負債	16,043	13,480	2,562
負債合計	41,944	41,471	473
資本			
親会社の所有者に帰属する持分合計	63,093	64,824	△ 1,731
非支配持分	7	7	△ 0
資本合計	63,101	64,832	△ 1,731
負債及び資本合計	105,045	106,304	△ 1,258

連結 第2四半期損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

	当第2四半期 2019年4月1日～ 2019年9月30日	前第2四半期 2018年4月1日～ 2018年9月30日	増減額
売上収益	34,338	44,433	△ 10,095
売上原価	27,830	32,710	△ 4,879
売上総利益	6,507	11,723	△ 5,215
販売費及び一般管理費	6,720	7,125	△ 405
その他の収益	81	112	△ 31
その他の費用	7	3	4
営業利益又は損失（△）	△ 139	4,706	△ 4,845
金融収益	137	468	△ 330
金融費用	245	48	197
税引前四半期利益又は損失（△）	△ 247	5,126	△ 5,373
法人所得税費用	243	1,333	△ 1,089
四半期利益の帰属			
親会社の所有者	△ 491	3,792	△ 4,283
非支配持分	0	0	△ 0
四半期利益又は損失（△）	△ 491	3,792	△ 4,284

連結 第2四半期キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

	当第2四半期 2019年4月1日～ 2019年9月30日	前第2四半期 2018年4月1日～ 2018年9月30日	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,912	1,714	3,197
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,117	△ 4,226	1,109
財務活動によるキャッシュ・フロー	427	2,182	△ 1,755
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 379	176	△ 555
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	1,843	△ 152	1,996
現金及び現金同等物の期首残高	11,693	13,182	△ 1,489
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,536	13,029	506

株式情報／会社情報

株式総数および株主数

(2019年9月30日現在)

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式の総数	12,972,187株
当第2四半期末株主数	4,823名

大株主

(2019年9月30日現在)

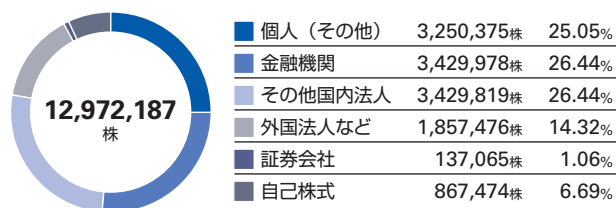
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
協同興業株式会社	1,845	15.25
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	677	5.60
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	533	4.40
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	365	3.02
山洋開発株式会社	318	2.63
日本生命保険相互会社	298	2.47
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG	255	2.11
株式会社みずほ銀行	227	1.88
株式会社八十二銀行	195	1.61
三井住友信託銀行株式会社	194	1.60

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

2. 当社は自己株式867千株を所有しておりますが、上記の表には記載しておりません。

所有者別株式分布状況

(2019年9月30日現在)



会社概要

(2019年9月30日現在)

会社名	山洋電気株式会社
創業	1927年8月
本社所在地	〒170-8451 東京都豊島区南大塚3-33-1 TEL 03-5927-1020
資本金	99億円
社員数	3,547名 (グループ全体)

主なグループ会社

(2019年9月30日現在)

日本	山洋工業株式会社 山洋電気テクノサービス株式会社
アジア	SANYO DENKI PHILIPPINES, INC. 中山市山洋电气有限公司 山洋電気 (上海) 貿易有限公司 上海山洋電気技術有限公司 山洋電気 (香港) 有限公司 山洋電気貿易 (深圳) 有限公司 山洋電気精密機器維修 (深圳) 有限公司 台灣山洋電気股份有限公司 山洋電気 (天津) 貿易有限公司 SANYO DENKI KOREA CO., LTD. SANYO DENKI (THAILAND) CO., LTD. SANYO DENKI INDIA PRIVATE LIMITED
北アメリカ	SANYO DENKI AMERICA, INC.
ヨーロッパ	SANYO DENKI EUROPE S.A. SANYO DENKI GERMANY GmbH

取締役および監査役

(2019年9月30日現在)

※代表取締役	山本 茂生
※代表取締役	児玉 展全
※取締役	松本 吉正
※取締役	宮田 繁二郎
※取締役	中山 千裕
取締役	三宅 雄一郎
取締役	鈴木 徹
取締役	諏訪 宏
常勤監査役	畑中 佐近
常勤監査役	天野 文雄
監査役	小倉 久幸
監査役	山本 武

※印の取締役は、執行役員を兼務

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年4月1日から起算し3ヶ月以内
期末配当受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当受領株主確定日	毎年9月30日
公告の方法	電子公告の方法によりおこないます。 (やむを得ない事由によって電子公告による 公告をすることができない場合は、日本経済 新聞に掲載しておこないます。)
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町1-2-4 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区日本橋茅場町1-2-4 日本証券代行株式会社 本店
お問合せ先	〒168-8620 東京都杉並区和泉2-8-4 日本証券代行株式会社 代理人部 電話 0120-707-843 (フリーダイヤル)

●各種手続のご連絡先

・未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人へご連絡ください。

・住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定など証券会社をご利用の株主さまは、お取引の証券会社へご連絡ください。

※証券会社をご利用でない株主さまへ

特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へご連絡ください。

特別口座での手続用紙のご請求はインターネットでも受け付けております。

ホームページアドレス

《日本証券代行》<https://www.jsa-hp.co.jp/name/index.html>

当社「IR情報」ホームページアドレス

<https://www.sanyodenki.co.jp/ir/index.html>

本ビジネスレポートには、業績予想などに関する記述が含まれておりますが、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

山洋電気株式会社

本社 〒170-8451 東京都豊島区南大塚3-33-1
電話 (03) 5927 1020
ホームページ <https://www.sanyodenki.co.jp>